

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」

第2期 管理職養成学校ニュース



2022年9月7日発行 (No.1) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902

電話 06-6772-1360 Fax06-6772-1376 Eメール/jimukyoku1@f-zenkoku.net

第2期管理職養成学校、いよいよ開校！！

去る8月25日、24名の受講生を迎え、送り出し法人の関係者、講師の先生方が見守る中、全国会議としては2期目の管理職養成学校開校式（ZOOM配信）を開催することができました。養成学校の内容、意義などを全国の会員の皆さまにお伝えできるよう、継続してニュースを発行し、学びの様子を届けていきますのでご期待ください。第1号は、開校式の模様をお伝えします。

開校式開催の趣旨は、養成学校開催の意義を分かち合うことにより、学習意欲を高めるとともに、受講生間の連帯感を築く契機とすることにあります。加えて、学校の仕組みやねらいについて、受講生・送り出し法人双方の共有を図ることも重要となります。



冒頭、茨木会長からの主催者挨拶では、利用者や職員を守るべく奮闘している今こそ、長期的な見通しを持って社会福祉事業を進めていく必要があること、そのためには、牽引者たる管理職育成が重要であり、受講生間の高め合いを期待するとともに、学びの成果を現場で活かしていくためにも、所属法人のフォローに期待したい、との言及がありました。また、この挨拶の中では、話題となっている仙台育英高校 須江監督の「青春って密」というフレーズから、「養成学校も負けなくらいに濃密。学びも濃密、関係性も濃密」と、この学校の本質をあらわされました。学校卒業生の皆さんには肯かれる方も多いのではないのでしょうか。決して忘れられない6か月間になるであろう、学校生活のスタートにふさわしいお話でした。



続いて、養成学校長の浜岡先生は、第1期のオンライン主体の学びについて、「物理的な距離を埋めるための方策が、新たな可能性を生み出し、より発展を遂げていくための実証実験の場となった。その経験を以て、第2期は確信をもって進めていきたい」と力強く挨拶されました。また、受講生へ贈る「学びの極意」として、孔子の「これを知る者はこれを好む者に如（し）かず」を挙げられました。学びは「楽」ではないが「楽」しむことが上達の秘訣という、この言葉を噛みしめたいと思います。



さらに、プログラムは、第1期卒業生代表によるプレゼンテーションに移ります。たんぽぽ福祉会の牛濱さんからは、「この学校で自分自身が変わる。役に立っている」、続く、ひまわり福祉会の須田さんは、「情熱を言語化する、それがプレゼンテーションであり、人を感化する言葉となっていく」と述べられました。2名の先輩のプレゼン実演（デモンストレーション）は、限られた時間内で養成学校の学びのイメージを届け、且つ励ましを伝えるものとなっており、いわば、第2期受講生に手渡されたバトンになったようにも思われます。



続いては、受講生の皆さんより、開校時の率直な思い、モチベーションが何%かをお聞きしたうえで、お一人ずつ自己紹介をしていただきました。「正直不安がいっぱいです！」「大変なところに来たという思いです！」「今は20%ですが、卒業時には100%までもっていきます！」など様々な思いが出されましたが、現在の自分の課題に向き合い、仲間と共に頑張るって学んでいきたいという思いがしっかり伝わってきました。



このような決意表明を受け、講師団を代表して、第3講座を担当される青木先生（よさのうみ福祉会理事長）より、受講生への期待を込めたお話をいただきました。学校が果たすべき役割や学びの仕組みについて、懇切に説明されたうえで、「開校式に先んじて学校の全体像がわかるよう作成されたシラバスや基本テキストを大いに活用してほしい。入学後はゼミ生同士のつながりを重視し、励まし合いながら困難を乗り越えてほしい」とのメッセージは、受講生の心に響いたことと思います。コロナ禍の動静に気を揉むところですが、11月下旬の第3講座では、与謝野町で充実した学びが展開されることを期待したいものです。



その後は、事務局による養成学校の流れの説明を挟んで、送り出す側の法人を代表して、麦の芽福祉会（鹿児島県）の黒川常務理事より、あたたかい励ましの言葉をいただきました。共に学ぶ仲間たちと意思を出し合い、学校で味わった体験を職場で語り合いながら、更なる場を作り出していくことへの期待、そして、「心の鎧を脱ぎ、素の自分を出せる、そんな安心感から、本物の学びが生み出される」とのメッセージは、養成学校の本質そのものです。最後は、乾研修委員長による閉会の挨拶を以て、第1部は閉会となりました。



休憩を挟んだ後は、第2部の受講生オリエンテーションに移っていきます。事務局からのプレゼンについて、講義間の過ごし方、ゼミ発表等に関する具体的な説明を通じて、これからの養成学校の学びのイメージがより明確になったことと思います。プログラムが押ししてしまったことにより、予定していた4つのゼミに分かれてのミニ交流を行えなかったのは、運営サイドとしての反省材料ですが、この日、最後まで配信会場で見届けていただいた浜岡先生から、受講生に労いの言葉をかけていただけたことは何よりでした。

さて、以上のように、養成学校第2期の「航海」が幕を開けました。東は埼玉から西は鹿児島まで、全国から24名の受講生が集ったことについては、養成学校へ寄せられる大きな期待とともに、民主的経営の担い手である管理職養成の課題が急務であることも、同時に痛感するところです。このような重みを、学校事務局一同、あらためて感じながら、第2期の運営を進めていきます。引き続きご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。

